

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイデリティ試聴会報告(2017.4.15)

日時：4月15日(土) PM1:15~PM3:00

会場：3F ハイファイデリティ試聴室

<使用機材>



B.M.C. プリメインアンプ CS3 ¥1,144,800



B.M.C. CDプレーヤー BDCD2 ¥885,600



ディデイト・ハイエンド DAコンバーター DAC212SE ¥486,000



カクテルオーディオ マルチメディアプレーヤー CA-X40 ¥518,400



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



当日のセッティング

<試聴の経過>

DA コンバーターには上記の DAC212SE の他に、BMC の PURE DAC2 が追加され DA コンバーターの聴き比べも行われました。

BMC のアンプの特徴は、ブランド名の **Balanced Music Concept** にもあるように① バランス入出力の採用、②一般的な抵抗可変型ではなく、定抵抗で増幅率を替えるボリューム、③カレントインジェクション（電流伝送）だそうです。

最初に、CD でサンサーンスの動物の謝肉祭、ジャズ、バリトンの歌曲などがかりましたが、共通して言えることは、明るめで通りの良い音です。反面、CD でのクラシックについていえば、質感の細やかさや陰影がもう少し欲しいという印象です。

続いて、カレントインジェクションの効果を聴いてみようということで、通常のパランス入力とカレントインジェクションのパランス入力を切り替えてカンターテ・ドミノがかかりましたが、後者の方は音色のバランスは変わらないものの、音の緻密さが増し、それだけ音楽の細かいニュアンスが伝わってくるようになりました。

女性ボーカルを聴いたのち、DAコンバーターの聴き比べをしてみることにになり、送り出しのCA-X40から、BMCのPURE DAC2とDiditのDAC212SEへの入力の比較を行うことになりました。

まずは、CA-X40に収納したベートーベンのP協、ビバルディの四季、ジャズ、女性ボーカルのファイル音源をBMCのPURE DAC2に送り出して聴いていき、女性ボーカルでDiditのDAC212SEに切り替えました。PURE DAC2でごく普通の再生パフォーマンスでしたが、DAC212SEでは、ディテールの向上、ソフトな表現と押し出しの必要などころはそうにと、表現の幅が広がったように感じました。

この状態で、CA-X40はBluetoothも受けられるということで携帯からのAir Playのデモを挟んで、アッカートのバイオリン、女性ボーカルと続きましたが、PURE DAC2の時よりは、DAC212SEになって音楽の表情が豊かになりました。最後にCDに戻って、カレントインジェクションでどうかということで、チェンバロと女性ボーカルがかかりましたが、チェンバロの繊細な表現の出方には不満が残り、女性ボーカルは気持ちよく聴けると言う印象でした。

以上